

高規格救急自動車仕様書

苫小牧市消防本部

1. 総則

この仕様書は、苫小牧市消防本部（以下「消防本部」という。）が令和8年度に購入する高規格救急自動車（以下「車両」という。）及び車両に装備する高度救命用資器材等（以下「救命用資器材」という。）に関する仕様について定める。

2. 規格

車両及び救命用資器材は、本仕様書に基づくほか、関係法令（基準、要綱含む）等に適合し、救急自動車として承認を得られるものであること。また、車両及び救命用資器材は、すべて納入時点での最新製品とし、関係法令に適合するものとする。

3. 提出書類

(1) 受注者は、車両製作前に次の書類に目次を付けて提出し、消防本部の承認を得ること。

- | | |
|---------------------|----|
| (ア) 製作工程表 | 2部 |
| (イ) 外観5面図 | 2部 |
| (ウ) 電気配線図 | 2部 |
| (エ) 内部艤装図 | 2部 |
| (オ) 取付品、装備品一覧 | 2部 |
| (カ) その他消防本部が必要とするもの | |

(2) 受注者は車両納入に際し、次の製本された書類または電子媒体に記録したものを提出すること。

- | | |
|---|----|
| (ア) 自動車検査証及びその写し
(所有者名は「苫小牧市」、使用者名は「苫小牧市消防本部」とする。) | 2部 |
| (イ) 自動車損害賠償責任保険証及びその写し
(契約会社は指定なし。契約者は「苫小牧市消防本部」とする。) | 2部 |
| (ウ) 改造自動車届出書（写し） | 2部 |
| (エ) 車両完成図（外観5面図、内部艤装図、艤装部電気配線図及び酸素配管図） | 2部 |
| (オ) 納品書・請求書 | 2部 |
| (カ) 取扱説明書（車両、取付救命用資器材及び装備品） | 2部 |
| (キ) 緊急自動車届出確認書交付申請済証及びその写し | 2部 |
| (ク) 登録完了後の車両写真及び電子データ
(外観5面、仕様書に基づく全ての取付品及び付属品並びに艤装工程状況) | 2部 |
| (ケ) 外注先一覧表（積載品、取付品名、会社名、所在地、電話番号等を記入） | 2部 |
| (コ) メンテナンスノート（部品、油脂類の交換基準が記載されたもの） | 1部 |

4. 検査、納入及び保証

- (1) 検査は本仕様書及び承認書類に基づき消防本部が行う中間検査（艤装終了時）、完成検査または機能検査及び納入時検収とする。ただし、完成検査または機能検査は納入時とすることが出来る。また、検査において不適合と認めた箇所については、直ちに無償にて交換または修正を行い、再検査を受けるものとする。
- (2) 納入については、消防本部が指定する場所と日時とし、車両及び付属品等全般について消防本部係員の検査を受けるものとする。また、専門技術員を派遣し、車両及び救命用資器材等の点検、整備及び取扱いについての技術指導を行うこと。
- (3) 保証期間は、納入後 12 カ月とし、保証期間後であっても設計不良、艤装不良及び材質不良等に起因する故障等が発生した場合には、納入者の負担において取り替え、または修理を行うものとする。
- (4) 納入時に、車両の燃料等を満タンにすること。

5. 補則

- (1) 本仕様書に基づく検査等に要する経費は、すべて受注者の負担とする。ただし、下記については、消防本部の負担とする。
 - (ア) 自動車損害賠償責任保険料
 - (イ) 自動車重量税
 - (ウ) 任意保険料
 - (エ) 自動車リサイクル料金
- (2) 本仕様書に記載がなく標準仕様であるものについては、遺漏なく取付けること。
- (3) 無線機等の取付け位置は、中間検査時に打ち合わせること。
- (4) その他必要事項については、別途協議の上で納入するものとする。
- (5) 救命用資器材の積載は、適切な重量配分を行うこと。
- (6) 車両の登録については、シャシ耐荷重を考慮し、最大積載量及び車両重量並びに消防本部が別途指定する救命用資器材重量を加えたものを基礎とし、車両総重量の登録をすること。
- (7) ナンバープレートは「苫小牧図柄入りナンバープレート（カラー）」とすること。
- (8) 本仕様書に明示なき事項であっても、装置の機能上当然具備すべきものについては、受注者においてこれを充足するものとする。また、本仕様書の内容について疑義が生じた場合は、双方において協議の上で解決を図るものとし、一方的な解釈によつてはならない。協議の議事録等はその都度 1 部提出し、担当職員の承諾を得るものとする。

6. 塗装及び記入文字等

- (1) 車体下廻りには防錆塗装処理を施すこと。
- (2) 看板マーキング
 - (ア) 車両メーカー標準の赤帯ラインを車両両側側面及び後面に、2インチ幅の反射テープ（オラライト）を張り付けること。
 - (イ) 車両に「スターオブライフ」のロゴマークを貼り付けること。なお、色、大きさ及び取付位置等は消防本部と協議すること。
- (3) 車両内に抗ウイルス液剤の塗布を施すこと。
- (4) 車体に貼り付ける文字は以下のとおりとすること。なお、詳細は消防本部と協議すること。

文字	貼り付け位置	色	字体	備考
苫小牧市消防本部	車体両側面	黒	角ゴシック	
苫救	ルーフ上部	赤(反射)	丸ゴシック	対空文字
令和8年度石油貯蔵施設 立地対策等交付金施設	バックドア窓下	黒	丸ゴシック	
AMBULANCE TOMAKOMAI	左右ルーフサイド	青(反射)		
錦岡救急1	車両前面及び後面	青	丸ゴシック	マグネット

7. 車両

- (1) 車両は、全有蓋密閉式とし、断熱性、遮音性及び冬季などの自然条件にも適応した構造とすること。なお、エンジン、ベース車両等は、高規格救急自動車とし、高機能及び高走行性能並びに高耐久性を有するもので、救急艙装に適したものであること。
- (2) シャシ仕様は、寒冷地仕様とし、次のとおりとする。

(ア) 年式、購入台数	令和8年式、1台
(イ) 駆動方式	フルタイム4輪駆動方式
(ウ) 型式	オートマチックトランスミッション
(エ) 使用燃料	ガソリン
(オ) 乗車定員	7名以上
(カ) 車両全長	6,000mm以下
(キ) 車両全幅	1,950mm以下
(ク) 車両全高	3,000mm以下
(ケ) 患者室長	3,500mm以上
(コ) 患者室幅	1,700mm以上
(サ) 患者室高	1,850mm以上

(シ) 扉開口高	サイドドア部：1,600mm 以上（1 段目ステップより） バックドア部：1,550mm 以上
(ス) ホイールベース	3,000mm 以上 3,200mm 以下
(セ) 車両総重量	3,500 kg 以下
(ソ) 排気量	2,600cc 以上
(タ) ヘッドライト	LED
(チ) フォグライト	LED
(ツ) タイヤ・ホイール	ラジアルタイヤ（スペア付き）、アルミホイール
(テ) 安全装置	衝突被害軽減ブレーキシステム、ABS 装置
(ト) オルタネーター	12V-100A 以上
(ナ) インナーミラー	デジタルインナーミラー
(ニ) 緩衝装置	周波数感応型ショックアブソーバー
(ヌ) デイタイムランプ	LED
(ネ) 路肩灯	LED（左右各 1 個）
(ノ) 補助方向指示器	左右上部ルーフサイド取り付け
(ハ) サイドミラー	電動格納式リモコンドアミラー（ヒーター付き）
(ヒ) エキゾーストパイプ	バックドア解放時に、排気ガスの流入を防止する構造
(フ) その他付属装置	電磁式集中ドアロック コーナーセンサー サイドバイザー

(3) 付属品については以下のとおりとすること。

(ア) スタッドレスタイヤ	ブリジストン製 アルミホイール付	5 本
(イ) スノーブレード		1 式
(ウ) フロアマット		1 式
(エ) シートカバー	運転席及び助手席（黒レザー）	1 式
(オ) 停止表示機	LEDタイプ	1 式
(カ) 予備球及び予備ヒューズ		1 式
(キ) タイヤチェーン		1 式
(ク) タッチアップペイント		1 式
(ケ) ナンバーフレーム		1 式
(コ) 車輪止め	ゴム製	1 式
(サ) 標準工具		1 式
(シ) キーボックス（ホルダー数 30 個以上）		1 式

(4) 納入時期に合わせ、スタッドレスタイヤ及びスノーブレードに交換すること。

(5) 車両の構造上対応が不可能な機能に対しては、これに代わる案を消防本部と協議し、対応すること。

8. 外部の装備

- (1) 赤色警光灯は以下のとおりとすること。なお、下記に掲げる赤色点滅灯は、サイレンアンプの起動スイッチで一斉点灯及び消灯すること。
 - (ア) 大型フロント散光式 LED 赤色警光灯を取り付け、周囲への視認性を最大限確保できる構造とすること。
 - (イ) 大型リヤ散光式 LED 赤色警光灯を後部左右に取り付けること。
 - (ウ) フロントグリル部に LED 赤色点滅灯を 2 灯取り付けること。
 - (エ) 両側ルーフサイド前後に LED 赤色点滅灯を左右各 2 灯の計 4 灯取り付けること。
 - (オ) バックドア上部左右に LED 赤色点滅灯を 2 灯取り付けること。
 - (カ) フロントバンパー両側面に LED 赤色点滅灯を左右各 1 灯の計 2 灯取り付けること。
- (2) 両側ルーフサイド前後に LED 作業灯を左右各 2 灯の計 4 灯取り付けること。また、作業灯が点灯していることが確認できるスイッチを、右側、左側に分けて運転席中央部に設けること。
- (3) ボンネット中央部に消防章を取り付けること。
- (4) ステンレス製訓練旗立て（訓練旗付き）を助手席ドア上方側面に取り付けること。
- (5) リヤバンパー後部に、担架及び傷病者等の搬出入時に適したステップを取り付けること。
- (6) ステップ周り等の滑り止め
 - (ア) 運転席及び助手席ステップ部にアルミ縞板を取り付けること。
 - (イ) 運転席及び助手席フェンダー部に滑り止めテープを貼り付けること。
 - (ウ) 左サイドステップ部にアルミ縞板を取り付け、ステップ前縁上面に滑り止めテープを貼り付けること。
 - (エ) 左サイドステップ蹴込み面にアルミエンボス板を可能な面に貼り付けること。
 - (オ) リヤステップ上面をステンレス製エキスパンドメタル仕様とすること。また、ストレッチャーの搬出に支障がない場所に、滑り止めテープを貼り付けること。
- (7) リヤバンパー後面に、ステンレス製プロテクターを貼り付けること。

9. 運転室内の装備

- (1) 運転席天井部に、既設ルームランプに連動して点灯する LED 作業灯を取り付けること。
- (2) 助手席前方上部に、助手席専用の LED ダウンライトを取り付けること。
- (3) 運転席助手席間に A3 サイズ地図等が入る、蓋無しセンターコンソールボックスを取り付けること。なお、センターコンソールボックスの前側は、AVM ディスプレイ及び無線機操作部並びに無線機送受話器の取り付けが可能な構造とすること。
- (4) センターコンソールボックス右側面にステンレス製 4 分割小物入れを取り付けること。
- (5) 助手席用インナーミラーを適当な位置に取り付け、後方の患者室を視認できるようにすること。

- (6) 助手席専用 LED フレキシブルマップランプを取り付けること。
- (7) 運転席及び助手席後方壁面上部に回転式 J 型フックをそれぞれ 1 カ所取り付けること。
- (8) 運転室と患者室との間に隔壁を設け、患者室から運転室への空気の流入が極力ない構造とすること。また、リヤクーラーの吸気口は運転室側からのみとし、運転室の空調ファンを外気導入にて患者室に取り込み、後部換気扇にて外部に排出される流れとなること。
- (9) 全ドアの内、1 カ所でも開放状態（半ドアも含む）であれば、シフトレバーを P レンジ以外に入れると警報ブザーが作動すること。
- (10) インパネ周りに以下の装備品を取り付けること。
 - (ア) 電子サイレンアンプを取り付けること。
 - (イ) 運転席ドア上部付近にフレキシブルマイクを取り付け、適当な位置にスイッチを取り付けること。
 - (ウ) 車両後部に専用スピーカーを取り付け、シフトレバーをバックにした際に、音声アラームが鳴る構造とすること。
 - (エ) 「右左折メッセージ」「後退警報メッセージ」の音声が出る構造とすること。なお、メッセージは消音可能な構造とすること。
 - (オ) 電子サイレンアンプ用の各種操作スイッチを設けること。なお、取付位置は消防本部と協議すること。
 - (カ) 運転室の中央部に「出動予告」「イエल्पサイレン」用スイッチを 1 カ所設けること。
 - (キ) 運転席側及び助手席側に、「ウーサイレン」「交差点通過メッセージ」「渋滞通過メッセージ」「協力感謝」用スイッチを各 1 カ所設けること。
 - (ク) カーナビゲーション（TV チューナー無し）を取り付けること。また、カーナビバックライト制御用イルミスイッチを設けること。
 - (ケ) 外線 AC100V 電源導入時に点灯するインジケータランプを設け、受電中にエンジンキーを ON にすると警報ブザーが鳴り、かつ、エンジンを始動できない構造とすること。
 - (コ) ETC 車載器を取り付けし、納車までにセットアップを完了させておくこと。なお、セットアップ費用は取付費用に含めること。
 - (サ) バックアイカメラを取り付け、車両後退時の後方確認ができる構造とすること。
 - (シ) ドライブレコーダーを、前方、後方及び患者室に設置し、患者室内にそれぞれの映像が切り替えにより確認できるモニターを設置すること。なお、「車内映像録画中」のステッカーを、同乗者に確認できるよう適当な位置に貼り付けること。また、記録用 SD カードの予備を各個分付属すること。

10. 電装関係の装備

- (1) 車庫内待機中に、外線 AC100V を導入するためのコネクター（蓋付き）を車両に取り付けること。なお、入力ケーブル（10m）を付属すること。

- (2) 走行中の車内 AC100V 電源を確保するため、内外自動切換え機能を有する正弦波 DC/AC インバーター（500W 以上）を装備すること。
- (3) 患者室右側に AC100V の 2 ロコンセントを 4 カ所取り付けすること。なお、外線導入時におけるコンセントへの電源供給及び走行中におけるインバーターからの電源供給が自動的に切り替わること。
- (4) 患者室に DC12V シガーライタータイプコンセント 2 口と、USB コンセント 2 口を取り付けること。また、外線 AC100V が供給された場合に、エンジンキーの ON/OFF に関係なく、自動的に患者室内の室内灯と DC12V コンセントに電源が供給される構造とすること。
- (5) 車庫内待機中に外線 AC100V が供給された場合に、自動的に車両バッテリーを管理できる自動充電装置を取り付けること。
- (6) 車庫内待機中に外線 AC100V が供給された場合に、患者室内の室温を温めることができる電気温風ヒーターを、患者室内に取り付けること。
- (7) 患者室搭載医療機器へのノイズ対策として、アースボンディング施工をすること。
- (8) 上記装備の取付位置等については、消防本部と協議の上で決定すること。

11. 消防専用無線電話装置等

- (1) 既存車両に設置されている「消防専用車載無線機」及び「車両運用端末装置Ⅲ型（ナビ・補助運用端末）」を取り外し、本車両へ移設すること。また、必要に応じ他車両から既存車両への移設をすること。
- (2) 運転席センターコンソールボックス付近及び患者室の 2 カ所に、新規のハンドセット型送受話器を取り付けること。
- (3) 運転席専用のハンドマイクを新規に取り付けること。
- (4) 運転席及び患者室にモニター用スピーカーを取り付けること。ただし、患者室側にあつては音声カットスイッチ付きとすること。
- (5) 電源は ACC 起動とすること。
- (6) 患者室の天井部に空中線基部取付部点検口を前後に設けること。
- (7) 空中線、同軸ケーブル、電源線及び音声ケーブルは新規とすること。ただし、無線機の本体と操作部間の連結ケーブルは既存の物を使用できるものとする。

12. 患者室内の装備

- (1) 天井内張ボードと天板（外板）との空間に、ウレタンスポンジを入れ断熱性を高めること。
- (2) バックドア窓にあつては全面、患者室左側窓にあつては 4 分の 3 を曇りフィルムとすること。

- (3) 床面は防水加工とし、他に浸水しないようにコーキング処理等を十分に実施すること。
- (4) 天井部に調光機能を有した LED 室内灯を設けること。
- (5) 室内灯とは独立した患者灯を取り付けること。
- (6) 座席の配置は以下のとおりとし、それぞれにシートベルトを取り付けること。
 - (ア) ストレッチャー架台頭部側に後ろ向きで、座面跳ね上げ式の 1 名掛け座席を取り付けること。
 - (イ) 左側スライドドア付近の前方に 3 名分の座席を設けること。なお、座席はバックボードに乗せた傷病者を固定して走行できるような構造とすること。
 - (ウ) 座席は跳ね上げ式とし、座席下部には資器材等が収納できるボックスを設置すること。
- (7) 患者室内に縦型収納庫（3 分割）を設けること。なお、上段と中段の仕切り棚の高さは調整が可能なものとし、内側にネットシェルフを 2 段取り付けること。また、上段と中段の扉と下段の扉は別の扉とし開閉が容易にできる構造とすること。
- (8) 自動式心マッサージ器を収納できる棚を設けること。
- (9) 出し入れ可能な酸素ボンベ収納庫を設け、9.4ℓアルミ酸素ボンベを 2 本格納できること。また、室内側から減圧弁の操作及びゲージの確認が出来ること。
- (10) 患者室左側前面にファイルやバインダー等を収納できるボックスを設けること。
- (11) 差し込み収納が可能なファイル入れを、使用しやすい位置に設置すること。
- (12) 着脱及び清掃が容易に行える場所に、足踏み式ダストボックスを設けること。
- (13) バックドア開口部左側に長タイプのグリップを取り付けること。なお、グリップの表面は握りやすく視認性に富んだ黄色のゴムパッド巻きとすること。
- (14) バックドア開放時にステップ付近を照らす LED 作業灯を 2 灯取り付けること。なお、操作スイッチは横向き座席後面に設け、ACC 起動でバックドア開閉に連動すること。
- (15) バックドア内側に、開放時にその下端が地上高 1.8m 程度になるストラップを取り付けること。
- (16) 天井中央部に前後通し物のアシストバーを 1 本取り付けること。
- (17) 天井に、折り畳み式点滴ボトル用ダブルフックを 2 カ所取り付けること。
- (18) 天井に、J 型回転フックを複数個所取り付けること。なお、取付位置にあつては消防本部と協議すること。
- (19) 救命用資器材のコード類を容易に収納・使用できる構造とすること。
- (20) 患者室内の空気を排出するための電動換気扇を取り付けること。
- (21) A4 サイズ及び A3 サイズの、マグネットが使用できるホワイトボードを取り付けること。なお、

- 直近に着脱式のペン立てを設け、マーカーペン（黒・赤・青を各1本）を付属させること。
- (22) レスキューツールをしっかりと固定できる構造で収納すること。
 - (23) 取り出しやすい位置に、ティッシュ・グローブボックス格納装置を4個取り付けること。
 - (24) 天井面にルーフネットを3カ所以上取り付けること。
 - (25) バックボード及びスクープストレッチャー（以下「ボード類」という。）の収納庫を設けること。
なお、出し入れはバックドア開放時の後方及び室内からも可能とすること。また、ボード類の固定装置を取り付けること。
 - (26) 天井両側前後に収納庫を取り付けること。また、右側前方の収納庫は前後を仕切り、前側の扉はアルミ製の鍵付とすること。さらに、右側収納庫の下面にアシストグリップを取り付けること。
 - (27) 患者室右側壁面には資器材等を収納可能な複数の収納場所を設け、収納物が脱落しにくく、出し入れしやすい構造とすること。なお、収納庫の一部はインキュベーターを使用できる構造とし、車庫内待機中及び走行中に連続してAC100Vの電源が供給される構造とすること。
 - (28) 患者室右側前方に、金属製3段トレイを取り付けること。
 - (29) 患者室右側前方及び壁面にA4サイズのマグネットを貼り付けできるようにすること。
 - (30) 患者室右側壁面にマイナタブレット及びOAタブレットを収納できるスペースを設置すること。
 - (31) デジタル電波時計（温湿度計付き）を取り付けること。
 - (32) 右側壁面前方にグローブボックス固定装置を2カ所取り付けること。
 - (33) 右側後方よりに、汎用メディカルポールを取り付けること。
 - (34) 右側壁面部に、センサー類の収納ポケットを取り付けること。
 - (35) 右側壁面部に、J型回転フックを複数箇所取り付けること。
 - (36) オゾン殺菌装置を設置すること。
 - (37) 搬送用資器材として以下の装備とすること。
 - (ア) メインストレッチャーについて、電動ストレッチャーを搭載すること。また、装備品として、予備バッテリー、マットレス、患者固定ベルト、サイドアームプレート左右、点滴ポールを装着させ、その他必要な附属品についても装備するものとする。
 - (イ) 上記メインストレッチャーを積載するための架台を設置すること。なお、左右スライド機能を有するものを基本とするが、メーカー仕様により左右スライドが不可能な場合は、この限りでないものとする。

(ウ) スクープストレッチャー

- ① FARNO 社製「スクープエクセルモデル 65EXL (ピン付きタイプ)」を搭載すること。
- ② ストラップモデル 436-IP (3 本) 及びヘッドイモビライザーモデル 445-SP-を付属すること。

(エ) バックボード

- ① FARNO 社製「NAJO Lite バックボードイエロー」を搭載すること。
- ② ストラップモデル 436-IP (5 本) 及びヘッドイモビライザーモデル 445 を付属すること。

(38) 取付け位置等の詳細は、消防本部と事前に協議の上で設計及び取り付け等を行うこと。

13. 救命用資器材の装備

(1) 気道確保用資器材の装備は以下のとおりとすること。

- (ア) ポータブル吸引器を搭載し、容易に着脱できる構造とすること。
- (イ) 吸引カテーテルを一時的に保持できるパイプを本体付近に取り付けること。なお、容易に着脱及び洗浄できる構造とすること。

(2) 酸素吸入資器材の装備は以下のとおりとすること。

- (ア) 2連式加湿酸素流量計(オキシパック OX-III S)を搭載すること。なお、ジュンロンチャックは2個付きとし、ジュンロンチャック付きヨーク型減圧弁2個を付属すること。また、減圧弁からの配管は3方チーズを介して、可能な限り隠蔽配管とすること。
- (イ) 車載着脱用具(EPTK3)及び自動式人工呼吸器一式を搭載すること。なお、容易に着脱できるよう留意すること。
- (ウ) 左側座席下床面に、2ℓ酸素ボンベ1本を格納できる装置を取り付けること。

(3) 観察用資器材として、心電図モニターを搭載すること。なお、容易に着脱できる構造とすること。

(4) 消防本部が支給する自動体外式除細動器 (TEC-2601 カルジオライフ S) を固定台座を設けて取り付けること。また、瞬時に取り外しが可能なマジックベルト等で固定し、患者収容時に引き続きモニターの監視を要する場合には、本体カバーを開放状態で簡易固定できるようにすること。

(5) 各救命用資器材の詳細については、別表を参照すること。

(6) 品名等が記載されているものについては、同等品以上とすること。

(7) 取付け位置等の詳細は、消防本部と事前に協議の上で決定すること。

分類	資器材品名	機種及び規格		数量
観察用資器材	心電計	日本光電ベッドサイドモニター ライフスコープVS 標準付属品 一式	BSM-3562	1組
		バッテリーパック	SB-671P	1個
		電極リード線	BJ-900P	2本
		心電図12誘導解析プログラム	QP-031P	1組
		血圧カフ成人用 (小)	YP-712T	1個
		血圧カフ成人用 (標準)	YP-713T	1個
		血圧カフ成人用 (大)	YP-714T	1個
		血圧カフ小児用	YP-711T	1個
		成人用中継エアホース	YN-901P	1本
		フィンガープローブ	TL-201T (1.6m)	1個
		マルチプローブ	TL-220T (1.6m)	1本
		SP02中継コード	JL-900P	1本
		ソフトチップエンピテックオキシセンサー	ミディアム RM-2203-16	1個
			スモール RS-2203-16	1個
		小型イヤースセンサー	ES-2203-16	1個
呼吸・循環管理用資器材	吸引器一式	電池式ポータブル吸引器 OB-Mini II 標準付属品一式		1組
		ディスプレイボトル1000ml	OB-Mini II 用 BSU506	1個
		ディスプレイボトル1000ml 6入り	OB-Mini II 用	1組
		1000mlボトル用チューブ付L字コネクター	OB-Mini II 用 SPS6024A	1個
		シリコンチューブ	OB-Mini II 用	3個
		1000mlボトル用ケース	OB-Mini II 用 BSU839B	1個
	自動式人工呼吸器一式	メデマット・イージー・CPR 基本セット	WMED-6EC	1組
		専用バッテリー	WM28045	1個
		患者ホースセットB	WM22520-1	1個